

Economic Indicators

発表日: 2023年6月1日(木)

2023年1-3月期GDP(2次速報値)予測

～前期比年率+1.9%への小幅上方修正を予想～

第一生命経済研究所 経済調査部

シニアエグゼクティブエコノミスト 新家 義貴(Tel:050-5474-7490)

設備投資を主因に1次速報から小幅上方修正を予想

6月8日に内閣府から公表される2023年1-3期実質GDP(2次速報)は前期比年率+1.9%(前期比+0.5%)と、1次速報の前期比年率+1.6%(前期比+0.4%)から小幅上方修正されると予想する。本日公表された法人企業統計の結果を受けて、設備投資が上方修正されることが影響する見込みである。

設備投資の上方修正により内需の寄与度が拡大し、1次速報からGDPの内容はやや良化する見込みだ。財需要の低迷による世界的な製造業部門の不振や海外経済減速の影響から財輸出が大幅に落ち込んだことが足を引っ張る一方、サービスに牽引されて個人消費が高い伸びになったことや設備投資の持ち直し、インバウンド需要が急回復したことなどが押し上げ要因となっている。全体として、外需の下押しを、サービス消費の増加やインバウンド需要の急増といったコロナ禍からの経済活動正常化の流れが上回る形となり、1-3月期の景気は持ち直しの動きとなったことが改めて確認されるだろう。

2023年1-3月期GDP予測

1次速報実績

	(%)	(%)
実質GDP	0.5	0.4
(前期比年率)	1.9	1.6
内需寄与度	0.8	0.7
(うち民需)	0.7	0.6
(うち公需)	0.1	0.1
外需寄与度	▲ 0.3	▲ 0.3
民間最終消費支出	0.6	0.6
民間住宅	0.2	0.2
民間企業設備	1.2	0.9
民間在庫変動(寄与度)	0.1	0.1
政府最終消費支出	0.0	0.0
公的固定資本形成	2.3	2.4
財貨・サービスの輸出	▲ 4.2	▲ 4.2
財貨・サービスの輸入	▲ 2.3	▲ 2.3
名目GDP	1.8	1.7
(前期比年率)	7.4	7.1

※断りの無い場合、前期比(%)

(出所)内閣府「国民経済計算」、第一生命経済研究所

需要項目別の動向

実質設備投資は前期比+1.2%と、1次速報の+0.9%から上方修正されると予想する。本日公表された23年1-3月期の法人企業統計では、名目設備投資（ソフトウェア除く）は前年比+10.0%（22年10-12月期：+6.3%）、季節調整済前期比+2.3%（10-12月期：+0.8%）となった。これを元に計算したところ、需要側推計値は1次速報での仮置き値を上回ることから、設備投資はGDP 2次速報で上方修正される可能性が高い。

日銀短観の設備投資計画でも確認できるとおり企業の投資意欲は引き続き強い。昨年度からの繰り越し分が顕在化しているほか、研究開発投資や脱炭素関連投資、デジタル・省力化投資などによる押し上げもあることから、今後も設備投資は上向きで推移する可能性が高い。ただし、輸出下振れを受けて製造業の設備投資に下押し圧力がかかっていることには注意が必要だ。今後も海外経済減速の影響で輸出が低調に推移する可能性が高いことから、製造業では投資の手控えが進むとみられる。設備投資の増加ペースは緩やかなものにとどまる見込みである。

民間在庫変動は前期比寄与度で+0.1%Ptと、1次速報から変わらないと予想する。1次速報で仮置きとなっていた仕掛品在庫と原材料在庫について本日公表された法人企業統計の結果が反映されるが、大きな修正はない見込み。また、公共投資は、1次速報で未反映だった3月分の建設総合統計の結果が反映されることで、前期比+2.3%と、1次速報の+2.4%から僅かに下方修正されるだろう。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

